

平成28年度第1回瑞穂市総合教育会議 会議録

平成28年9月29日（木）午後2時開議

○日 程

開会

1 あいさつ

- 2 議 題
- (1) 瑞穂市教育振興基本計画について
 - (2) 瑞穂市ICT教育について
 - (3) 平成29年度教育施設予算要望について

3 その他

閉会

○出席者

市 長	棚 橋 敏 明	教 育 長	加 納 博 明
教育長職務代理者	加 藤 悟	教 育 委 員	福 野 佐 代子
教 育 委 員	麓 英 里	教 育 委 員	森 下 伊 三男

○欠席者

なし

○説明のため出席した者の職・氏名

教育次長	高 田 敏 朗	教育総務課長	久 野 秋 広
学校教育課長	村 山 邦 博	幼児支援課長	山 本 康 義
生涯学習課長	伊 藤 巧	秘書広報課主任	村 田 杏 沙

○職務のため出席した者の職・氏名

企画部長	廣 瀬 充 利	秘書広報課長	石 田 博 文
秘書広報課主査	青 木 美 香	秘書広報課主任	小 野 真 太郎

○傍聴者

1人

開会 午後 2 時

開会の宣告

○石田秘書広報課長 定刻となりましたので只今から平成 28 年度第 1 回瑞穂市総合教育会議を始めたいと思います。本日の司会を務めさせていただきます秘書広報課の石田と申します。よろしくお願ひいたします。会議に入る前に皆様にお諮りしたいと思います。本会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 第 6 項の規定により原則公開となっております。現時点で傍聴希望の方がお 1 人いらっしゃっています。傍聴希望者の方の傍聴を認めるということで皆様よろしいでしょうか。

(全員同意)

○石田秘書広報課長 それでは傍聴の方に入ってください。

(傍聴者入室)

○石田秘書広報課長 もう 1 点、瑞穂市総合教育会議運営要綱第 7 条の規定に基づきまして議事録には出席者の氏名等が公表されますことも申し添えます。それでは初めに棚橋市長よりごあいさつ申し上げます。

あいさつ

○棚橋市長 皆さんこんにちは。平成 28 年度の第 1 回ということで、新しく森下さん、加納さんに入ってくださいました。新鮮な意見、それと同時にそれぞれの世界において積まれた経験をこの会議の中で生かしていただけるものだと思っております。そういった意味からも素晴らしいスタートを切るのではないかとと思っております。よろしくお願ひいたします。

○加納教育長 改めましてこんにちは。本年度第 1 回の瑞穂市の総合教育会議ということでお集まりいただきましてありがとうございます。新しい教育委員会制度になっていろいろなところが変わりつつあります。これまでは教育長と教育委員長という 2 つのポジションがありましたが今はもう教育長 1 本ということになっての新しい教育委員会でございます。この総合教育会議というものも新しい教育委員会制度に基づい

て行われる会議でございます。市長とも私どもの考えを共有しながら教育行政を行っていきたいと思います。私どももいろいろ活発に話をしたいと思っております。お願いします。

○石田秘書広報課長 それでは瑞穂市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、これより棚橋市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。

議題 (1) 瑞穂市教育振興基本計画について

○棚橋市長 それでは議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。議題1番の瑞穂市教育振興基本計画についての説明をお願いいたします。

○加納教育長 (資料に基づき瑞穂市教育振興基本計画のいきさつについて説明)

○村山学校教育課長 (資料に基づき計画の具体的内容について説明)

○棚橋市長 はい。ありがとうございました。ご意見、ご質問あればよろしくお願いたします。

○麓委員 感覚的なものではなく、いつからいつまでにやるという計画が大事だと思います。

議題 (2) 瑞穂市ICT教育について

(3) 平成29年度教育施設予算要望について

○棚橋市長 2番目の瑞穂市ICT教育についてと3番目の平成29年度予算要望についての2つを併せて説明をお願いいたします。

○村山学校教育課長 (資料に基づき瑞穂市ICT教育について説明)

○久野教育総務課長 (資料に基づき学校等の主要工事の予算要望内容について説明)

○伊藤生涯学習課長 (資料に基づき生涯学習施設の主要工事の予算要望内容について説明)

○棚橋市長 ではご意見ご質問があればよろしくお願いたします。

○麓委員 ICT機器の導入の目的がはっきりしていないように思えます。国

の指針に対して瑞穂が遅れているのでというのは、説明としては不十分という気がします。例えば今タブレット機器がすでに穂小と巢中の特別支援学級に導入されたうえでこのようなもうすでに成果がでてるとか、今回予算として1億円で導入してもらわなければならないのか、それが教員であろうが子どもたちであろうがプラスになっているということの説明が欲しい。

○加藤教育長職務代理者 電子黒板機能付きのプロジェクターの使い勝手が良いなと思って話を伺っていたところですが、教育を進めていくにおいては大変便利なものであり意義があるものだと思います。このプロジェクターですが、ここに実物投影のカメラを接続して映すこともできますね。ビデオも当然できますね。そういう活用があるので大変良いものだと思うので、導入していただけるとありがたいと思います。

○棚橋市長 はいわかりました。森下先生どうですか、今まで使ってこられた立場として。

○森下委員 電子黒板について、前回教育委員会の時にこの資料を見せていただきました。さっそく友人に「今こういうものを考えているのだけどどう？」と聞いたところ、5年くらい経つと電子黒板のタッチ感度が悪くなって使い勝手が悪くなるらしいです。そういう意味ではあまり高いものを導入してももったいない。むしろそれよりもここに計画されているものを導入されてそれを使った方が良いのではないかと。どのみちICTの世界というのは5年10年でゴロゴロ変わってきますので、最新型を導入しても恐らく使い勝手が悪くなるということがありますから、むしろそうであれば簡単に使えるようなものの方がより良いですよということを伺いましたので、そういう意味でも今回計画されているのが最適ではないかなと思います。それから、ハードウェアとソフトウェアというのは両輪なのでハードウェアだけ先行してもいけない。ソフトウェアあるいは使う人たちの意識を変えていかなければならない。こういうことに使いたいからと言ってハードウェアを入れることもあるが、ハードウェアがあるとこれで何かできないかということを考えて新しい使い方ができる。そういう意味でどちらが先

行なのかわかりませんが、皆さんに意識を持ってもらって使えば教育効果は上がるものだと私は思っています。そのほかには、使用される先生方に、研修会を開き、意識を高めていただくというのが導入した時の成功の条件ではないかと思えます。ハードウェアだけが先行してほかの人たちが置いてきぼりを食ってしまうと結局ホコリかぶったもったいないものになってしまいます。活用しないと意味がないということで、ぜひそのあたりの環境も整えてやってもらったら良いかなと思えました。

○福野委員 2、3年前から話題になっている電子黒板ですが、機械に苦手意識を持っている先生方も多い。研修を同時に進めていただき、自信を持って使ってもらいたいと思います。英語教育もそうですが、導入に抵抗を感じ、早期退職までしてしまうベテランの先生方もいらっしゃいます。さまざまな経験をされたベテラン先生の良さもたくさんあると思いますので、若手とお互いに知識を共有できる風通しの良い環境を作ってもらいたい。

○棚橋市長 尋ね合いながら助け合いながら、コミュニケーションのツールとしても使っていけると良いですね。改修等についてのご意見等がございましたらお願いします。

○福野委員 外でも使えるAEDはありますか。

○加納教育長 学校には体育館に1台設置してあります。

○福野委員 グラウンドでもたつてしまうと、せっかく助かる命がもったいない。とっさのときに屋外にもAEDを設置することを考えていくことは大事だと思います。

○棚橋市長 今回の牛牧小学校の改修で良くなりましたが、レイアウトのまずさを感じました。プールは北側に作る人が多いのでしょうか。もう少し清潔感のあるところにあってもよさそうに思います。

○加納教育長 南小と本田小が工事として挙がっていますが、生津小、穂積小、中小と、設計をやってその次に工事という予定はあります。ここにはありませんが、遊具をどうするかという問題も結構大きいです。どの学校も遊具は今ひどい状態になりつつあります。もう使えないものか

らまずは撤去。昔の設置の基準と今の基準が少し違ってきているので、もう少し間隔を空けて設置しなければいけないものが昔の基準のままやっているの狭いところがたくさんあります。古くなってもう使えないものは、「使えません」と言って放っておくのではなく、まずは撤去しましょうということで、今年度から撤去をまず始めています。替わりのものは、撤去していったスペースが空いた中で設計しましょうという風にしていきますので、徐々に減っていきます。でないと、保育所もそうですが、本当に狭いスペースに押し込んである状態です。保育所9、幼稚園、それから7つの小学校、全部遊具が劣化してしまっているの心配だなという部分が結構あります。

○福野委員 今は、危ないから、老朽化しているからと言ってすべて撤去しますよね。けがをされるといけないから。でも小さい子ほどその運動によって危険なことを覚えていくと思います。育てなければいけないものがあるのにそういう経験を全くせずに、自分を守る力が衰えていってしまう。だから、本当に子どもに必要なものはやっぱり直していった欲しい。子どもの育ちに大きな影響があると思う。

○加納教育長 その通りです。ただ、設置することによって校庭が狭くなるともっと困ると思います。だからまずは危なくて使えないものは撤去しましょう。少々古いものは我慢して使ってくださいという風です。撤去したところへすぐに新しいものが設置できるかと言うと、基準が違うのでできない。しないのではなくて。条件をクリアしていないので、まずは撤去してスペースを確保してから設置していきましょうという予定を立てています。ここでは出てきていませんが実は、校舎のこと、プールや体育館のこと、それから遊具のことというのはいっぱい問題があるということ、ちょっとわかってもらえると良いなという思いで話をしました。

○棚橋市長 そういうことも加味しながら進めていってほしい。危険を感じる教育も必要。リスクを感じなければ本当に成長した時に感じるものがなくなってしまう。それと同時に運動によって刺激から活性化させる部分があります。ブランコは思い切ってやれば面白いのですが、逆に

それで危険が増す。自分がその危険の度合いを感じる。それから、子ども同士が遊んでいるとよくぶつかります。ぶつかったり接触したりすることによって危険を感じる、また経験する。こういった体で覚えていくというのはものすごく大事だと思います。そのほかこの際なので忌憚なく言っていただきたいと思います。

○**麓委員** 中学校の運動会を見に行ったときに、穂積中学校の南側にある時計はなぜ狂っているのかという話をしましたが、「直らないと言われた」と言われました。確かにあの時計は子どもたちが部活動をするときは必要になるのですが、もっと必要になるときは恐らく有事のときだと思います。何か災害が起き、あそこのグラウンドに地元住民が来るとなったときとか、使えないものがずっと置きっぱなしにしているというのはどうかと思ひまして、撤去すれば良いのになと思ひました。動くものだと思ひた感覚で見ているので、小さいことなんですけど、すごく気になってしまいました。

○**棚橋市長** 時計は誰しも気になると思ひます。止まっていると。教えてあげなきゃいけないと思ひたりします。

○**麓委員** そこにいる人はわかっているから良いのですが、そうでない人が見るので、何か被せるなどしてほしい。

○**加納教育長** それも遊具と一緒に撤去できると良いですね。遊具もできる限り残すんですよ。ただ、今の話でも、錆びてぐらぐらになっているとか、コンクリートから外れているとか、これはいかにも危ないのでというので撤去するだけです。撤去してもスペースがないので新しいものが入らないというのが現実で、困ったなと思ひています。

○**加藤教育長職務代理者** 校舎を中心とした改修ということで計画を立ててられるんですが、学校のフェンスのこととかあるいは各小学校での動物の飼育が減ってきていること。これは動物にとってもよくないし、飼育をカットすることはもっとよくないと思ひのですが、こういった形の改修も考えていただけると良いと思ひます。

○**加納教育長** 牛牧小にも立派な鳥小屋とかあるんですけどね。あれをどうするかという話は考えておりますけども。

- 棚橋市長 青少年の家かな、ああいったところでも以前はものすごくたくさん動物を飼っていたのですが、鳥インフルエンザ等の影響で貰い手をものすごく探されていきました。世の中の流れもちょっとつかんでいただいてどうするかということも考えていただきたいと思いますね。
- 加納教育長 その通りです。やっぱりあの鳥インフルの時からぐぐーっと減りました。この辺では本巢市の弾正小学校がかなりたくさん動物を飼育しています。動物ランドと言って作っているくらいですから、いっぱいいます。でも他はどんどん減っていっています。県内でも本当に減っていっています。昔はヤギなんかを飼っている学校もあつたくらいで。すごい学校がいっぱいありましたけど、今は本当に減っています。
- 棚橋市長 もう皆無に等しいと思います。
- 加納教育長 せいぜい水槽に魚飼っているくらいで。その程度ですね。
- 加藤教育長職務代理者 昭和の53年か4年の時かな。長期の休みの飼育の体制がきちんとしているんです。ですからずっと長いこと、子どもたちだけじゃなくて地域も関わるような形で進められているので存続しているわけですね。
- 加納教育長 獣医さんが地元において、獣医さんとの関わり合いも上手なのですよね。そういうのもやっているのでもうまくいっています。今言われたそういった背景とか組織とか体制がきちつとしないと難しいですね。大変良いことなのですが。命を預かるということは。
- 棚橋市長 飼育を進めるべきか、止めるべきかその狭間かもしれませんね。古いものはそろそろ撤去しないといけないときが来ています。施設は中で飼育しないと余計に傷みます。
- 加納教育長 さっきICTのことが出たのでちょっとお答えしたいと思うんですけど、かつてパソコンを学校に導入するという情報教育が入り込んだ時期がありました。平成の一桁のころですけど。その時はやっぱり抵抗はものすごく強かった。マニアックな人はうまく使える。この差はとっても激しかった。今はもうタブレットを入れるとなるとちょっと厳しいものがあります。ただ若い人はほとんどもうスマホを使う

のでスマホが使える人はもうタブレットは十分使えます。では年配はどうかと言ったら電子黒板のデジタル教科書を使えると授業が一層うまくなることが多いです。要は集中させることもうまくできます。教科書と同じ画面が出ます。教科書はペーパーですが、そこにいろいろな機能が付いていまして、例えば資料だったら資料だけをポンと出すこともできるし、例えば写真をクリックすれば動物だったらその動物の鳴き声とか英語なら英語の英文をクリックして色を変えればその文をネイティブな声でしゃべった声が出るとか。いろいろなことができるのでそれだけ覚えるだけなのです。そうするといろいろな人が使いやすくなっていくということがあります。だから今の管理職レベルのメンバーは「こんなの入れてもなあ」と言います。校長教頭あたりは言います。自分がやってないから。やってないからそういうことを言うのです。だから恐らく校長会で諮っても「いやあこんなものを入れても無理だろう」と言ってきたと思うんですよ、瑞穂市の場合。ところが、若い先生たちと話していると「早く入れてくださいよ」という声はいっぱい聞きます。例えば岐阜に勤めたとか、いろいろそういうのがある学校に、地域に勤めたことのある先生は「えっ、瑞穂市無いの？」という声をいっぱい聞きます。だからそう思うと多分入れたらどどどーんに行くのではないかということは期待できると思いますし、先ほども言われたようにコンテンツとしてデジタル教科書は入ればこれはうまく使いこなせると思います。だからこれも今年の夏に教科ごとに集まって必要か必要じゃないか審議してもらいました。その結果、社会科と美術科は「要らない」と言いました。他は「欲しい」と言いました。美術は使えると思います。社会はもっと使えると思うのですが。だからまだ使っていないからですね。研修については、岐阜市でやっている学校の先生を呼んで講座を開いてやり始めています。そういう準備をしていくことによって恐らくスーッと入っていくのではないかなと期待できます。昔パソコンが入って「どうやってやるんだ？」「スイッチどこや？」っていう時代とはたぶん違ってくると思います。プロジェクターを出して、投影してデジタル教科書のメ

ニュー画面が出たら触れば動きますからね。1年生レッスン1って入れればもうどんどん行きますから、そういう風にしてやるだけで、じゃあどういう機能を後は持っていくかとやっていくとそれはうまくできると思います。以前、体育の授業を見ていると、作戦を練る時に、サッカーのコートが映し出されて、ここに選手を置こうかとそういうこともできるようなソフトが入っていました。すごいなと思います。だからそういうのを後は使うだけなのです。恐らくうまくやれると思います。そういうことによって子どもたちの興味関心を高め、学力を最終的には高めることができるだろうと期待していますし、こういうのを使いこなすことができる子どもが将来求められている社会人としての資質の一つとなってきたので、そういう意味ではどんどん導入して使えるような子どもたちを育てていきたいというのが今の考えです。ちなみに今の中2の子たちが大学入試を受けるときは新しい大学入試制度です。そうした時にはもっともっと自分の表現力とかいろいろな考え方であるとかをきちっと表現できる子どもになっていないと大学入試に太刀打ちできない時代が来るだろうと言われています。そうした時にいろいろな学習の中でそういったものを活用して、子どもたちの表現できる、発表するという力を、これから瑞穂市は一気にやらなきゃいけないなということを思っております。ずいぶん大学入試も変わってきます。今年の冬にあった入試でも、例えば講義を聞いて、レポートを書いてまとめて発表するとか、そういうような入試をやっている大学もあったり、いろいろな入試の形態も変わってきますのでそういったものにも対応できる能力は子どもたちに着けていきたいし、大学に行かなくてもそういう能力はこれからの社会に求められるだろうという風に考えております。

○麓委員 それであるならば子どもたちにとってもやっぱりすごく良いことなので、先ほど言われた社会と美術の教科は必要ないということなのですがあえてこの（資料内の）要望のある教科のみというカッコは抜いたほうが良いと思いますが。これだと必要ないからという風に反対にとられてしまう可能性はありますので、今年の傾向と一緒に要望

のある教科のみというカッコ書きは、29年30年は抜いたほうがよろしいかと。

○加納教育長 たぶん中学校が使っているのを小学校の先生が見れば「欲しい」となりますよ。

○棚橋市長 チャレンジしようとなってきましたからね。

○加納教育長 要望のない教科も次年度はやっぱり自分たちも欲しいとなると思いますのでとりあえず出していきたいと思います。要は押し付けるのではありません。あなたたちが本当に欲しいのは何なのと。これ以外のソフトを欲しいという教科もやっぱりあります。数学なんかになるとシミュレーションできるソフトが欲しいと言いますから、そういうのは逆にあげても良いなど。ある学校には入っているけどある学校には入っていないというのは止めようねと。共通してどの学校も行って国語は入っている、社会は入っていないと。そういう風にしたほうが良いでしょうということで、環境ごとに話し合いをさせてもらっています。

○棚橋市長 しゃべってくれてよかったですね。ほんとにね。

○加納教育長 一応こういうご意見があったので伝えますけど。美術と社会の教科には。

○麓委員 伝えてほしいですね。

○棚橋市長 それと、森下先生が驚かれた、そこに相当の違和感を覚えられたということは、本来は美術で生かせるものがあるのではないかと思いますね。

○加納教育長 むしろ映像がきれいなんでね。今のは本当にきれいに映りますね。実物を見ましたけど。岐阜市の私がいた学校はテレビ型で50インチなんです。でもスクリーンは72だったかな。かなり大きいのでとっても見栄えがあります。特別教室は80インチにしますから、でもそれはこの位置をちょっとずらせばいけるので、ホワイトボードがちょっと大きくなるだけでほんの2、3万円高くなるだけでほぼ変わらない値段でできるということなんです。じゃあ教室もでかいやつ入れるかと言ったら教室に大きいものは出入りも困るし、教室に大

きいものがあると威圧感があるので教室は70インチにしましょうかと。70あればかなりの効果は出るかと思えますね。

○棚橋市長 あとどうですかね、今の議題としてはいかがなものでしょうか。

教育とそれから予算要望のところはひとまずこれで、皆様方から要望としてあった部分と思われるところはこれからまた教育委員会の中でまたそのように対応していただくということで。

その他 ピースメッセンジャー事業及び平和推進事業について

○棚橋市長 議題以外のところに進ませていただきます。

○石田秘書広報課長 その他というところでご意見を賜ればと思ひまして、今資料を配布させていただきたいと思ひます。次年度以降の平和推進事業の進め方についてご意見をいただきたいと思ひます。平成24年度から始まった事業でございますが、教育委員会の皆様方と市内の各中学校のご協力で5年目を終え、一つの節目を迎えるのではないかなと私どもは考えております。平成29年度から事業の一部を見直していきたいなということで考えております。この件につきまして担当の村田より少しご説明をさせていただきたいと思ひます。

○村田秘書広報課主任 (資料に基づきピースメッセンジャー事業及び非核平和イベントについて説明)

○石田秘書広報課長 来年度からピースメッセンジャーの派遣をなしにいたしまして非核平和イベントの方の事業を充実させていきたいなと思ひております。学校を巻き込んだイベントで、教育委員会の方々には大変お世話になっておる事業でございますのでせっかくの機会でございますので少しご意見をお聞かせ願ひたいと思ひます。

○棚橋市長 (過去の事業内容について、内容は充実しているが、特定少数の生徒にしか効果がうまれなことを中心に、同行してみてもわかったこと、事業の継続性がないことなどを説明。)

○加納教育長 (広島と長崎について、修学旅行との関係も踏まえた平和学習の現状や、事業の継続性が生まれなため、一区切りつけたい旨を説明。)

○福野委員 この事業そのものは大変意義があると思いますが、行った子にしか効果がでず、そこで終わっている点ではより多くの子どもたちにこの平和学習をしてもらいたいと思うので、見直しというのは必要かなと思います。ではどうすると良いか、についてはすっとなかなか出てきませんが。私たち自身も戦後生まれですので、戦争の悲惨さというあたりがなかなかぴんと来ないのが事実です。けれど、80歳以上の老人からいろいろ話を聞くと、この近くで空襲があったことがわかるんです。ですから、わざわざ広島や長崎まで行かなくても学習はできるのかなとは思いますが。ただどうそれを組み立てるかが難しいところで、例えばその小学校中学校の学習の中で扱うものなのか、あるいはまたそのほか特別なもので扱うものなのか、お話を聞く会で終わってしまうのも非常に残念ですから事業と絡みながらそういった行事が組めると良いのかなと。そうすれば少人数を派遣して事業を行うより、多くの子どもたちに効果が生まれると思います。

○森下委員 確かに少ない人数だけ送っているんですね。あとアフターフォローというのかな、それがしっかりしていないとやはりなんとなく単発で終わってしまうということは確かにあると思います。

○福野委員 非核平和都市宣言をしているのだから一部の子たちだけで次につながっていかない現状はちょっと。

○麓委員 どこを優先に子どもたちは考えるか。ちょっとやっぱり今の生活が優先になってしまって、どうしてもこういう企画があったとしてもなかなか参加できない。我々みたいに修学旅行で行ったよというものは大人になってもやっぱり行きたいと思って行くんですよ。子どもも連れて行くんですね。なのでそれを今の子どもたちに行って帰ってきてじゃあそれを伝えなさいと言ったところで、イメージもやっぱり湧きにくいところではあると思うんです。伝える場所もなければ伝える力もやっぱり難しいとは思うんですね。非核平和都市宣言をしている都市だということを子どもたちがわかっていないといけないとも思うんですよ。そうじゃないと伝えていけないので。そのためには広島、長崎のことに例えては例えば社会の勉強とかああいうところでうまく取り

入れていくことも大事だろうし、道徳とかで取り入れることも可能だ
と思うんです。他に、もしやろうと思えば例えば生涯学習課のやって
いる、瑞穂大学のおじいちゃんおばあちゃんたちがぽろっという話を
子どもたちにするとか。実は今日たまたま本当に「B29の音を聞いて
逃げた」とか「ランプに黒い布を2枚かぶせて外に見えなくしたん
だよ」という話をたまたま地域のおばあちゃんからひよんな話で聞い
たばかりなんです。自分の中でも「いま飛行機の音怖くないんです
か」と聞いたくらいなんですよ。だからぽろぽろと、大きな話じゃな
くてもできるおじいちゃんおばあちゃんというのもたぶんいると思
います。それから去年は県でやったのかはわかりませんが、岐阜空
襲の展示とか。

○棚橋市長 7月9日の岐阜大空襲の。

○麓委員 私も行きましたけど、そういうのを例えば瑞穂の場所を貸してでも
やってもらうようにちょっと企画を変えていった方が良くはない
かと思います。たまたまその時はそれを企画している人がおみえにな
って、自分も被爆かなんかされた方で、私も下の子を連れて行ったと
きだったので子どもに話をしてくれるんですよ。そのあと子どもは何
を言ったかというとき広島行きたいと言いました、やっぱり。

○棚橋市長 だからこそそうやって言ったのかもしれないね。

○麓委員 岐阜の空襲なら例えば、傷の残った木が岐阜市の小学校にあります
よね。やっぱりどこにあるんだろうっていう疑問がわいてきて一回見
たいよねという風になったりとか。

○棚橋市長 原爆のパネル展であれば、大判の写真ですが、それは先日も広島
で最後のあいさつに行きましたときに貸し出しはできますからという
ことは賜っています。展示することはそんなに難しいことではないの
ですが、また教育委員会のお力をお借りしなくてはと思いますが、た
だそういったことになった場合にお尋ねしましたら貸し出しはでき
るということはおっしゃっていただけました。

○石田秘書広報課長 ありがとうございます。皆様のご意見を参考にまた来
年度の事業を組み立てていきたいと思えます。どうもありがとうございます

いました。

閉会の宣告

○棚橋市長 議案としては以上でよろしいですか。教育委員の皆様本日はありがとうございました。それでは最後になりますが地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第7項及び瑞穂市総合教育会議運営要綱第7条の規定により市長が議事録を作成することになりますが内容については私に一任していただくことでよろしいでしょうか。

(全員同意)

○棚橋市長 ありがとうございます。会議の円滑な運営にご協力いただきましてありがとうございました。それでは瑞穂市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、これで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 午後3時40分